

## “幸せの時限爆弾”をしかけよう

を聞いたことがあります。

幸せの時限爆弾を仕掛けよう。

この爆弾は人を不幸にするのではなく、  
幸せにする爆弾だ。優しくする爆弾だ。

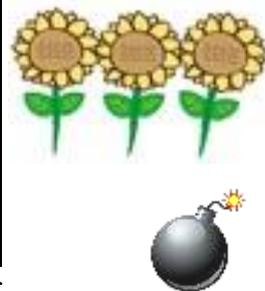
仕掛けた直後に、自分や誰かを幸せにするのではなく、  
しばらく経った後、爆発し、その爆風は自分や誰かを幸せにする。  
その時、爆弾を仕掛けた本人はそのことを忘れているかもしれない。

この話を聞いた時、自分も幸せの爆弾をしかけてみようと思いました。

学校の教員という職業は、辞めるまでいくつかの学校に行きますが、私は各学校で爆弾を仕掛けています。ある学校には木の苗を植えてきました。資料室の中を人知れず片付けてきました。しかし、全部の学校で仕掛けてきたのは子どもたちに数学を教え、「数学の芽」を発芽させる爆弾です。子どもたちが予測困難な社会に出た時、その数学力が役立つと信じています。

“南中ノート”も自分に仕掛ける“幸せの時限爆弾”だと思います。自分で勉強する力、計画を立てる力、続ける力が培われます。続けていくと、将来、なりたい自分になれる。

いつ聞いたのか、もう忘れてしまいましたが“幸せの時限爆弾”という話を



※ 同様の“幸せの時限爆弾”という話を聞いた人のコラムが3年前に載っていました。裏面に載せています。

## 日曜日、体育大会ができますように

Unite ~<sup>つお つお な</sup>紡ぎ紡がれ一つに成れ~

練習が制限されました。外で行う練習を団ごとに第一体育館と第二体育館に分けたり、学年を分けて体育館で行うなど工夫しました。新型コロナウイルス感染防止のため、今年は各家庭応援2名までと昨年より厳しい制限を設けていますが、来校される方は拍手による声援をよろしくお願いします。保護者の方々への各団長からの一言を紹介します。

赤団団長の引場正弥さんから

最初に、このようなご時世の中、体育大会に来ていただいたり、また、制限のため来られない状況の中、応援していただいております。当日は南阿蘇中生全員で思い出に残るような体育大会を創ろうと思っておりますので、よろしくお願いします。

青団団長の高宮大暉さんから

私たちはコロナという制限の中、工夫を凝らし、日々の練習に取り組んできました。当日は体育大会スローガンである“Unite”のように青団が団結した姿を見てください。

土日の天気、雨が降らないことを願っています。

体育大会はすぐにも感動しますが、一人ひとりが誰かに仕掛ける

“幸せの時限爆弾”だとも思います。



(体育大会予行の様子)

## 幸せの時限爆弾

新年もあつという間にひと月半が過ぎた。この冬は寒さの厳しい日が多く、熊本では珍しい雪景色も数回見ることが出来た。そうは言ってもすでに二月も半ば。姿は見えないが春の足音が聞こえてきそうな気配はある。一昨日は春一番が吹いたとラジオの天気予報で伝えていた。熊本に春を呼ぶと言われる大植木市も始まっている。今年の6月から時々通い始めて、11月からほぼ毎日の様にお世話になっている事業所への長い通勤時にカーラジオやCDを聞いている。

先日の朝の通勤途中で聞いた放送で「幸せの時限爆弾」という話を聞いた。爆弾とは随分物騒な響きで幸せとはかけ離れているように感じたが、聞けば仕掛けた直後に自らや誰かを幸せに出来るわけではなく、しばらくの間を置いた後に仕掛けて置いた爆弾が炸裂し、自らや誰かを幸せな思いにさせるというお話だったと思う。「幸せの時限爆弾」。いいなと私は思った。

その放送を聞いて中学生か高校生の頃にしていたイタズラを思い出した。それは私の二人の妹の学校の教科書の余白に落書きをするという他愛のないイタズラだった。おそらく退屈な授業であるだろう例えば世界史のまだ開いていない随分先のページに、「眠ったらいかんよ」とかいうセリフ付きで愛猫の姿の漫画のイラストを描いたり、教科書に登場する偉人の写真などに巧妙にヒゲを付け加えておく、などというものだった。授業中の妹がいつそのページを開くことになるかわからないのだが、数ヶ月先にそのページの落書きに出会った妹のことを想像して楽しむ気の長いイタズラだった。これも幸せの時限爆弾かなあ。そしてそんなイタズラをしたことを本人も忘れてしまった頃に、時限爆弾が炸裂する。

ある日、学校から帰った私は、爆弾の被害を受けた妹の猛抗議を受ける。静かな教室で突然にこみ上げて来る笑いをこらえるのは大変だったらしい。当時を振り返るとそれで妹達が幸せになったかどうかは随分怪しく、おそらく迷惑でしかないが、少なくとも私にとっては幸せの時限爆弾であった。

先に書いた熊本の植木市。ぜひ今年も行きたいと思っている。植木市と言え、随分以前にまだ元気だった頃の母と一緒に植木市に行った時の母の言葉を思い出す。「植木市に行っても、もう木を植える場所が無い」そう、母は言って出かけることをしぶった。私は若い頃には植木市で小さな植木の苗木を求めては庭に植えた。ここしばらくは植木市自体に行かなかつたし、行っても植木を買うことは無かった。それは自分が人生の晩年を迎え、今から小さな苗木を植えても楽しめる頃には自分の命は尽きているに違いない「今更」という言葉が浮かんだからだ。もちろん、お金さえ出せばすぐに鑑賞できる成木も売ってはいるが、私の小遣いでは最初から無理な話だ。だから最近植木市の中の春の雰囲気を楽しむために出かけていた。でも今年もし植木市に行ったらぜひ苗木を求めたい。栗の木が欲しいと思っている。そして私が植えた栗の木に栗の実がなる頃に私の生が尽きていてもかまわない。それこそ「幸せの時限爆弾」だ。木を植えるだけでなく子や孫の次の世代の人のために、いろんな「幸せの時限爆弾」を仕掛けたい。(2018.2.15)

### 3年生は5月27日全国学力・学習状況調査に向けて(問題その2) ※ これも「幸せの時限爆弾」

当日は、国語と数学の問題とアンケートがあります。1. 2年生も分かるかもしれません。

(国語) 卒業をテーマに俳句を制作しています。

○ 卒業に こぼれる涙  と  
あなたは空欄にどの言葉を入れますか選びなさい。

A ほろほろ B ぽろぽろ C ぼろぼろ

また、その言葉を使うことでどのような情景や心情を表現できると考えたのかを答えなさい。

(数学) 下のAからオまでの数の中から、絶対値が3より大きい数をすべて選びなさい。

A -5 B -2 C 1 D 4 E 3

※ 「基礎学習が全ての根源であり、まさに王道」  
「他人に言われなくても努力する人間が一番成長する」と「ドラゴン桜」の「桜木建二」も言っています。